

指標 15.4.1

指標名、ターゲット及びゴール

指標 15.4.1 山地生物多様性のための重要な場所に占める保全された地域の範囲

ターゲット 15.4 2030 年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。

ゴール 15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

定義及び根拠

○ 定義

「山地かつ KBA の場所」を「山地の生物多様性のための重要な場所」と定義し、その地域の保護区で網羅されている割合を指標とした。

○ 概念

KBA (Key Biodiversity Area) : 国際基準で選定された、生物多様性の保全の鍵となる重要な地域

保護区 (陸域及び内陸水域) : 生物多様性の保全及び生態系サービスの持続可能な利用を目的として、法律又はその他の効果的な手法により管理される明確に特定された区域。

○ 根拠及び解釈

ターゲット 15.1 の達成のためには、生物多様性にとって重要な地域を明らかにし、効果的な管理がなされていることが必要であるため。

データソース及び収集方法

「令和元年度 生物多様性条約における 2020 年以降の国際目標に関する議論に向けた調査検討業務」

算出方法及びその他の方法論的考察

○ 算出方法

1. 陸生の生物多様性に重要な場所

- (1) ベースとなるKBAのデータとしては、以下で公開されているGlobal版のKBAのGISデータから陸域のみのKBAデータを抽出し、「山地の場所」のGISデータと重ねることで「山地の生物多様性のための重要な場所」とした。

World Database of KBA(<http://www.keybiodiversityareas.org/home>)

- (2) 上述の「山地の生物多様性のための重要な場所」のGISデータを「陸域の保護区」のGISデータに重ね合わせることで、「山地の生物多様性のための重要な場所」の保護地域内の面積値を算出。

生態系タイプ	全面積	内 保護区	保護区内割合
山地の生物多様性のための重要な場所	44,467km ²	29,788km ²	67.0%

○ コメントと限界

なし

データの詳細集計

なし

参考

- ・ 国土数値情報の行政区域 平成 22 年度版
<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03.html>
- ・ 国土交通省 20 万分の 1 土地分類基本調査 地形分類図
<http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/>
- ・ World Database of KBA
<http://www.keybiodiversityareas.org/home>

データ提供府省

環境省

関連政策府省

外務省、農林水産省、環境省

担当国際機関

国連環境計画世界自然保全モニタリングセンター (UNEP-WCMC)

バードライフ・インターナショナル (BLI)
国際自然保護連合 (IUCN)